

TM ニュース

TM ミーティング参加生徒用情報4号 2016. 11. 24

最新医科学研究講演会(10月8日)

この講演会は、TM生の医学分野における知見を深めてもらい、将来に生かしてもらうことを目的として企画されています。今回は、東京都医学総合研究所から、糸井昌成 病院等連携研究センター長、原孝彦 幹細胞プロジェクトリーダーにご講演をいただきました。

<講演要旨>

糸井昌成先生からは、『医学をきわめるーからだと心の科学』、原孝彦先生からは、『iPS細胞を用いた血液再生医療』のご講演でした。

糸井先生は『医者には、いつでも他人のためにひと肌脱げる準備を日々怠らないこと』が求められると医師としての姿勢を話ししてくださいました。そして、実体験のお話として、家庭、臨床医、研究医の鼎立の為に毎週数百キロを車で移動するというハードな日々を過ごしたこと。成果が出ない中、諦めずに粘り続け、転勤をするという最後の朝に訪れたドーパミン仮説を裏付ける結果が出たというドラマチックなお話がありました。

心についてのお話では、愛犬ポポには心があるけど、クラゲやルンバにはないことを、ご自身やご家族のことを踏まえながら、わかりやすく熱く、語ってくださいました。



原先生は、多分化機能と自己複製機能を併せ持つのが幹細胞であること。造血システムの起点となるのは造血幹細胞であること。ヒトiPS細胞から造血幹細胞を作製する研究の展望などを中心に、これからの教科書に掲載されるようなホットなお話をいただきました。そして『自分の努力が人の命を救う』という研究者の矜持が伝わってくるお話をしてくださいました。(市原)



ご講演中の両先生

大学入試センター試験近づく

平成29年1月14日～15日がセンター試験日です。医学部受験では、まずセンターでの高得点が重要です。正確な知識の体系化が医師の思考資質のベースになります。そこで、今回は、大野校長から、高校3年生に向けたメッセージをいただきました。

TMの皆さんへ、特に3年生の皆さんへ

すっかり秋めいてきました。いよいよセンターまであと2月ほど、3年生の皆さんはきっと寝る間も惜しんで勉強していることと思います。気温の変化の激しいこの頃、栄養と睡眠で健康を保ってください。インフルエンザが流行し始めています。予防注射は終わっていますね。免疫ができるまで半月ほどかかりますので、早めに準備しましょう。

さて、言うまでもなく国公立医学部受験はセンターが合否を決めます。まずはセンター、ついで2次対策です。センター9割以上を目指し頑張ってください。志望校選びの支援の面接も始めましたが、今はセンターの結果により受験校は変わると考え、とりあえずの第一志望と、万が一センターの結果が思わしくない時の受験校を何校か選び願書だけは取り寄せておきましょう。まだセンター85%以上が安定して出ない人は、念のためセンターでの第一選抜がない学校も考えておきましょう。

今年の皆さんの目標はもちろん現役での第一志望校合格です。まずはそれに向かい必死に努力する。しかし、統計的には合格まで1浪くらいする人が多いのも事実。その際、個別試験(二次試験)を現役の時に受けていないと浪人しても厳しい。最小限の目標とし

て、今年是个別試験を受けておかねばなりません。

今の時期、しっかり勉強してきた人は、スランプに陥り弱気になっている人もいるかもしれません。きちんと勉強してきた人ほど、自分の力で大丈夫かと心配になり、悩んでしまうことがよくあります。心配いりません。努力は必ず報われます。この時期のスランプは皆同じ。弱気になることはありません。家の周りの軽い散歩など気分転換をして頑張ってください。きっとうまくいきます。

1年生、2年生の皆さん。先輩たちはこのように頑張っています。来年、再来年は皆さんの番です。将来の夢をもちながら、今の目の前の勉強を着実にこなしていくことこそ、夢をかなえるただ一つの方法です。王道はありません。日々の努力が本番での自信につながり、成功をもたらすのです。**幸運の女神は準備のできている人に微笑む!**



繰り返し事実を確認し、
正確な知識の定着を第一に図りましょう。
その知識と知識をつなげて生かすことで、より深い思考につなげていきましょう。

◎小論文対策について

TMニュース3号に引き続き4号でも、国語科の横堀先生から小論文対策を寄稿いただきました。是非、参考にしてください。

小論文講座2 誰に対して何をかくのか



「〇〇先生いらっしゃいますか?」「はい、何でしょう。」「あのお、プリント…」職員室でよく見かける光景です。先生方から、名前を名乗り、用件は何かはつきり伝えるように指導されることがあるでしょう。実は文章を書く時にも同じことをやっている場合が多いのです。

仮に「花」という題名が出されて文章を書く場合のことを考えてみましょう。こういう課題を出すときたいいていは『花』という題名をみて、桜を思い出した。「花」として色々な花を想像する。桜、梅、チューリップ。「いきなり花という題名を出されたが、普段あまり考えたことがない。」人によってはこうした内容の文章が長々と続きます。そして文章の半分くらいになったところで、「桜といえば卒業式を思い出す。」などと具体的な内容を書き始める。

実は最初の書き出し、これは構想メモの段階なんです

ね。課題を出されると、多くの場合とりあえず文章を書き始める。そして思い浮かんだメモを書き連ねていって考えがまとまった段階で本論に入っていく、こうした書き方をしてしまうんです。つまり、「この文章で何を書くか?」ということが十分に考えられていないということなのです。文章を書く際には、何をどういう順序で書くのかということ(構成)をあらかじめしっかり考えておいてそのプランに則って書かなければ内容の優れた文章は書けません。

そしてもう一つ大事なことは「誰に対して書くのか?」ということです。みなさんは多くの場合、課題を出した教員を(知らず知らずのうちに)読者として想定して文章を書いているのです。すると、甘えが出てしまう。学校で共通理解している言葉を実にあっさりとして使用してしまいます。例えば「私は3年間TMで学んできました。」なんて志望理由書に書いてしまうわけです。読んでもらう相手に対してわかるように説明するという意識に欠けてしまうのです。

誰に対して何を書くのか、じっくり考えて文章を書くようにしましょう。

今後の予定について **活動予定を確認してください!**

11月25日(金) 12月10日発表予定者の資料提出日

12月6日(火) 午後1時からTMミーティング
化学講義室

- 今年度のセンター出願状況と駿台の模擬試験結果から見た医学部入試動向
 - 模擬試験結果(各教科の習熟状況)から見た出願先傾向と合否結果など、予備校ならではのデータに基づいたお話
 - 平成29年度入試に向けた11月からの学習面の取り組みについて
→ 高校3年生、2年生、1年生に向けた助言
 - 医学部推薦・AO受験のポイント
 - 医学部受験生への助言
- *12月10日の発表者は、講堂で発表練習があります。

12月10日(土) 研究発表会 午後1時30分 講堂
講評者 東京女子医科大学遺伝子医療センター
松尾 真理 講師

1月21日(土) 東京医科歯科大学 磯部光章 教授
医学講演会が予定されています。46卒の先輩です。

*12月22日 TMニュース5号発行予定